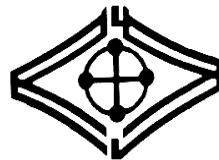


大津市立

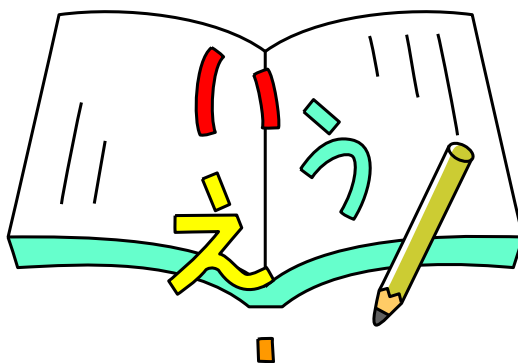
堅田小学校・堅田中学校



《保存版》

「家庭学習のすすめ」

令和3年(2021年)



小・中学校の学習は、子どもが将来社会人として自立するための基礎となる大切なものです。

学校で子どもの学力向上に取り組んでいくとともに、学校と家庭が連携することで、学習内容がより確かに定着し、学力が伸びていきます。

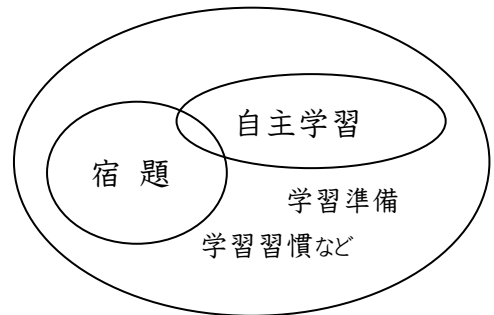
この「家庭学習のすすめ」は、本学区の子どもの実態を踏まえ、家庭学習のすすめ方や保護者の働きかけのポイントをまとめたものです。お子様と一緒に読みいただき、家庭学習の手助けとしてご活用いただければ幸いです。

1 家庭学習の意義

「家庭学習」とは、宿題をはじめ、学習準備や学習習慣、自主学習などを含めた「家庭での学習」のことです。

では、「家庭学習」は、なぜ必要なのでしょう？

「家庭学習」によって、以下(1)～(4)のような教育的効果が期待できるからです。これは、小学校においても中学校においても同様です。



(1) 学習内容の定着・習熟

学校で学習したことを家庭で復習することにより、定着・習熟を図ることができます。漢字の「読み書き」や「音読」、「計算」などを確実に身につけるためには、何度も繰り返して練習し定着させることが重要です。また、そこで身につけた力が全ての学習の基礎になっていきます。同じような学習内容でも、「もっと速く、正確にできるようになりたい。」という習熟の意識や「もっと調べてみたい」などという意欲を発揮する場面になるのも家庭での学習であるといえます。

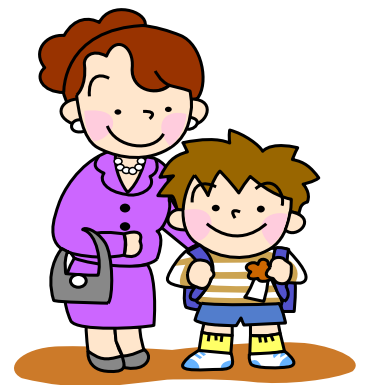
学校で「わかった」ことが、復習によって「できる」という自信に変わります。そして学校の授業にも積極的に参加できるようになります。

(2) 学習習慣を身に付ける

学校で学習したことを確実に身につけていくためには、繰り返して取り組むことが必要不可欠です。毎日家庭学習を続けることにより、自ら進んで学ぶ習慣が身に付きます。低学年のうちから毎日続けることは、学年が進むにつれて高度になる学習内容の確実な習得に向けてとても大切になります。さらに、毎日家庭学習をすることが当たり前の習慣になります。少しずつでも継続することが大きな力につながるのです。

(3) 家族のふれあい・コミュニケーション

子どもが音読するのをそばで聞いてあげたり、学習している内容に目を通してあげたりすることが、家族のふれあいやコミュニケーションのきっかけになります。家族から励ましや賞賛の声かけをもらうことで、子どもの学習意欲はグンと増します。そのような体験が次の学びへの意欲の育ちへとつながると考えています。さらに、家族のふれあい機会が増えることは、子どもの精神の安定・健やかな成長につながります。



(4) がまん強さ・根気・集中力を身に付ける

家庭学習に集中して取り組むには、テレビやゲームなど、いろんな誘惑に打ち勝つことが必要です。その過程で、がまん強さ、根気、集中力を養うことができます。テレビやゲームの時間を決めて家庭学習の時間をしっかりと確保したいものです。そのためには、家族全員の協力が必要です。

2 家庭学習の方法

- (1) 最初に学校から出る「宿題」に取り組みましょう。
- (2) 時間が余ったら「自主学習」に取り組みましょう。
- (3) どうしても勉強に飽きてしまう時は、読書など必ず机に向かわせてください。「机に向かう」という習慣が大事です。
- (4) 学習が終わったら、次の日の準備をしましょう。鉛筆を削り、準備物をしっかりと整え、明日の学習予定を頭に入れるように心掛けましょう。
- (5) 家庭学習時間のめやす

小学校 1日平均	
低学年	30分
中学年	45分
高学年	60分

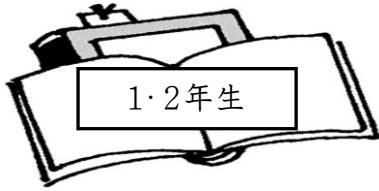
中学校 1日平均	
1年生	90～120分
2年生	120～150分
3年生	150～180分

※短時間で集中して学習することが長続きのこつです。
集中して取り組ませることを心がけてください。

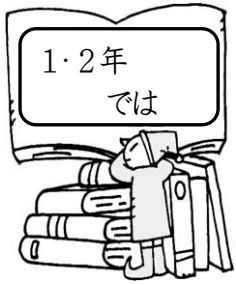
3 各学年の家庭学習

次ページより、各学年の子どもたちの発達段階に応じた学校で学習することや家庭学習のポイントなどをまとめていますので、参考にしてください。自分の(お子さんの)学年だけでなく、他の学年のページもご覧ください。共通・継続して取り組むと効果があることも記述しています。





基本的な生活習慣と学習習慣を知ろう！



- ・「早寝・早起き・朝ご飯」「朝の排便」「元気なあいさつ」「正しい姿勢で座る」などの基本的な生活習慣が身につくと、学習の習慣も身につきます。就寝時間は、それぞれの家庭の事情があるかもしれませんが、8時間以上の睡眠時間はぜひ確保したいものです。
- ・「やったね」「よくできたね」という「ほめ言葉」が、素晴らしい意欲を生み出します。また、何でも知りたがっています。
- ・学習内容や方法は、子どもの意欲が高まるように、親子で相談しながら決めましょう。（一人で学習することや、やり方を決めることはまだ難しいです。）

- ・「読み・書き・計算」など、基礎的・基本的な学習が始まり、先生の話をしっかり聞いて学習します。
- ・1年生で、ひらがな・カタカナ・漢字(80字)の学習、2年生で、漢字(160字)の学習をします。
- ・生活と結びついた学習が多く、具体物を使ったり、実際に体験したりします。
- ・くり返して練習することで、力のつく学習内容がたくさんあります。
- ・「正しい姿勢で座る」「鉛筆を正しく持つ」「整理整頓をする」も基本となる学習です。



かっ こつ
学校
では

家庭学習のポイント

- 1 生活リズムの中に学習の時間を！ ～家族も一緒に根くらべ～
 - ・それぞれの家庭に合った生活リズムをつくりましょう。学習する時間はテレビなどを消しましょう。
 - ・家族ぐるみで、よりよい学習の場づくりに努めることが大切です。学習が終わったら、必ず家族の目で確かめ、ほめてあげましょう。つつい口うるさくなりがちですが、強制したり、間違いをきつく叱ったりすることは逆効果になります。
- 2 子どもに家事を！ ～中学年・高学年になっても～
 - ・家庭で、子どもにもできる仕事を見つけ、継続してできるように応援しましょう。家族の一員としての自覚が育つとともに、学習に必要な持続力、集中力、根気などが育ちます。学年が上がっても続けていきましょう。
- 3 子どもと一緒に！ ～親子の触れ合いを～
 - ・学校のでのできごとを聞いてやったり、買い物や運動、読書などを一緒にしたりしながら、子どもとの触れ合いを増やしましょう。
 - ・音読、九九の暗唱等、大人がお手本になるような姿を見せながら応援しましょう。また、上達していく過程を子どもとともに実感し、喜び合しましょう。

- ・「家でも勉強する」という習慣をつけましょう。
- ・学校からの連絡やお便りなどを、家のひとと一緒に確認しましょう。
- ・学習は、正しい姿勢で。鉛筆は、正しく持ちましょう。



※時々、チェックしながら、確認しましょう。○：子ども用 □保護者用

しゅく だい
宿 題

- はじめに、宿題からやりましょう。宿題が早く終わったときは、漢字や計算練習をするなど、とりむことを決めて家庭学習をしましょう。
- 全部やり終わられるように励ましましょう。
- 認め、励まし、その上でアドバイスをしましょう。

こく ご
国 語

- 楽しみながら、すらすら読めるように毎日練習しましょう。
- 句読点に気をつけて、大きな声ではっきり読めるようにしましょう。
- ひらがなや漢字の書き順に気をつけ、丁寧に書きましょう。
- 子どもに合った本をまわりに置きましょう。読み聞かせをしましょう。

さん すう
算 数

- 学校で習った計算に慣れるように練習しましょう。正しくできるようになったら、少しずつスピードを上げて練習しましょう。
- 正しい計算手順が確実に身につくように、ときには、手順を説明しながら練習しましょう。
- 間違えた問題は、必ずもう一度やり直す習慣をつけましょう。

そのほか

- 進んで読書をしましょう。
- 鍵盤ハーモニカの練習をしましょう。
- 鉄棒やなわとびの練習をしましょう。
- 楽しかったことやうれしかったことを自分の言葉で絵日記や日記にかきましょう。
- 物作りや自然体験活動、公共交通機関利用などを通して、経験や気づきをため込んでいきましょう。



自分にあつた生活習慣と学習習慣を覚えよう！



- ・自立心が芽生え、自分でやろうとすることが多くなりますが、まだ手助けは必要です。
- ・忍耐力を身に付ける上でも大切なくり返しの練習に素直に取り組めます。そして、「やる気」や「根気」が育つ時期です。
- ・いろいろなことに興味を示し、行動範囲が広がります。好きなことに熱中するようになります。

- ・3年生から、社会や理科、総合的な学習の時間などの学習が始まり、学習する内容も大きく広がります。また、リコーダーや毛筆、ローマ字など、教科の中で新しい学習が始まります。
- ・3年生からは国語辞典や地図帳、4年生からは漢字辞典の使い方を学び、自分で調べ学習をする機会が増えます。
- ・新しい漢字をたくさん学習します。(3・4年生とも200字程度。)
- ・算数では、四則計算(+、-、×、÷)の基礎・基本を学ぶとともに、3年生から分数や小数などの内容も学ぶようになります。
- ・4年生では、計算の能力を定着させ、それを活用する能力を伸ばすような学習を行います。



かつこつ
学校
では

家庭学習のポイント

- 1 宿題以外の学習にも挑戦！ ～進んで学ぶ習慣を～
 - ・宿題以外の自主的な学習に積極的に取り組み、家庭学習のレベルアップを図っていきとよいでしょう。
 - ・身のまわりの自然や社会の出来事に目が向くように働きかけましょう。
 - ・家事を分担し、進んで行うことも、大切な学習です。
- 2 テレビやゲームは時間を決めて！ ～自律心を養いましょう～
 - ・テレビやゲームに夢中になって、遊びの時間が長くなりがちですが、けじめをつけさせることが、自律心や学習への集中力を育てることになります。根負けせず励まし続けましょう。また、子どもの学習時間には、家族がテレビを消すという姿勢も大切です。
- 3 がんばりを本気で誉める！ ～子どもとの会話を大切に～
 - ・「勉強が難しくなった。」という戸惑いや苦手意識を持つ子どもが出てきます。自信を持たせたり意欲をふくらませたりするような励ましが大切です。

がっこう れんらく たよ かなら てわた しゅうかん
・学校からの連絡やお便りなどを必ず手渡す習慣をつけましょう。

(手渡しできない時の置き場所を決めておくとよいでしょう。)

きょう しゅくだい あす よてい じぶん たし
・今日の宿題や明日の予定を自分で確かめる習慣をつけましょう。

がくしゅうまえ ばしょ せいりせいとん
・学習前に、学習する場所の整理整頓をしましょう。



か てい
家 庭
では

ときどき ※時々、チェックしながら、確認しましょう。○：子ども用 □保護者用

しゅくだい だい
宿 題

- 宿題が早く終わった時には、国語や算数の復習をするなど、課題を決めて家庭学習(自主学習の参考例参照)をしましょう。
- 子どもの宿題の内容や学習の結果を見て、お子さんの学習の様子を時々確かめましょう。
- お子さんが「分からないから、教えて。」と、言った時には、できる限り応えてあげましょう。

こく ご
国 語

- 毎日、音読する習慣をつけましょう。内容や場面の様子がよく分かるように読みましょう。
- 学校のドリルなどを活用して漢字を繰り返し書く練習をしましょう。
- 国語辞典や漢字辞典を手元に置き、使い方に慣れるとともに、分からない言葉や漢字を自分で調べる習慣をつけましょう。
- 図書室や図書館などを利用して、いろいろな本を選んで読みましょう。
- 本やテレビ・新聞で出てきたことわざなどを、一緒に調べましょう。

さん すう
算 数

- かけ算やわり算などの正しい計算手順が身につくよう、繰り返し練習しましょう。
- 筆算は位をそろえて書き、手順を確かめながら計算しましょう。
- 三角定規や分度器、コンパスなどが正確に操作できるように繰り返し練習しましょう。
- 三角定規や分度器、コンパスなどの学習用具は、子どもの使いやすさを考えて用意しましょう。

そのほか

- 習った曲をリコーダーで練習しましょう。
- 鉄棒やなわとび、ランニングなどで体力づくりをしましょう。
- 「なぜだろう。」「どうしてだろう。」と思ったことは、辞書や図鑑などを使って自分で調べたり、家族に質問したりしましょう。
- 日常の場面を切り取り、自分の言葉で日記に書きましょう。
- 社会や総合的な学習の時間の地域学習、理科の天体観察などには、家族の方ができる限り協力してあげましょう。
- 家族で出かける機会があれば、いっしょに行き先の地図を広げて、道路や鉄道などの行き方や地域(都道府県や市町村)の産物等を調べるとよいでしょう。また、買った品物の産地に着目し、「地産地消」のよさを考えてみましょう。



自主的な生活習慣と学習習慣を身につけよう！



- ・夜更かし、テレビ・ゲーム・パソコン・携帯電話漬けでは学習に集中できません。
- ・得意な科目、好きな分野が見つかるとう勉強好きになるきっかけにもなります。
- ・競争心が芽生える時期です。良い友人関係の中で自分を高めていきましょう。
- ・自分でできているので、言葉がけに配慮が必要です。
- ・体も心も急激に変化します。バランスがくずれ、不安定になることもあります。成長を見守ってほしいと思っています。(気になることがあれば、担任の先生等と話し合しましょう。)

- ・委員会活動などで協調性や責任感が求められます。
- ・抽象的な言葉をたくさん学びます。
- ・新しい漢字をたくさん学習します。(5・6年生とも190字程度)
- ・5年生では、分数の通分・約分、異分母の足し算・引き算、割合も学習します。
- ・6年生では、縮図や分数のかけ算・わり算などを学習します。
- ・5年生から、週2コマの外国語の学習が始まります。また、家庭科の学習が始まり、衣食住の基礎・基本を学び、裁縫や調理の実習も行います。
- ・コンピューター、辞典類、新聞などを使って進んで調べる学習が増えます。



かっ ころ
学校
では

家庭学習のポイント

1 計画的な学習を！ ～学習時間を決めて～

- ・子どもたちの放課後が、忙しくなります。自分に合った生活リズムをつくれるように助言しましょう(夕食前や早朝など、学習に取り組む時間帯を決める)。そして、計画を立てながら学習を進めましょう。
- ・家族の一員としての役割を決め、しっかり果たせるよう声をかけましょう。

2 4年生までの学習を見直して！ ～復習も大切に～

- ・例えば、算数で学ぶ小数や分数のかけ算やわり算は、これまでの整数の計算や文章題などで計算の意味や仕組みが理解できていると、スムーズに学習に取り組むことができます。また、抽象的な言葉の理解は、国語の漢字の読み書きがしっかり身につけていることが、必要になってきます。

3 一つの活動でもよいから続けよう！ ～継続は力なり～

- ・「計算が得意」「歴史が大好き」「調べ学習は根気よく取り組める」「漢字練習は好き」などのように得意な分野を見つけましょう。小さな自信が必ず大きな力になるはずですよ。

4 信頼し合える親子関係を！ ～子どもの話をよく聞き、温かく見守る～

- ・他の子と比べず、昨日のわが子と比べて、認め、励ますことで、子どもが自信をもてるようにしましょう。

- ・学習プリント類はきちんと整理しましょう。
- ・今日の宿題や明日の予定を自分で確かめる習慣をつけましょう。
- ・学習前に、学習する場所の整理整頓をしましょう。
- ・テレビやゲーム、パソコン、携帯電話（スマートフォン）は時間や置き場所などの約束を決め、守りましょう。



※時々、チェックしながら、確認しましょう。○：子ども用 □保護者用

しゅく たい
宿 題

- 分からないところがあっても、教科書やノートを見ながらあきらめずに取り組みましょう。
- 宿題が早く終わった時には、課題を決めて家庭学習（自主学习参考例参照）や次の日の学習を確かめるような予習をしましょう。
- 計画を立てて自力で学習を進めるように見守りましょう。
- お子さんが「分からないから、教えて。」と、言った時には、できる限り応えてあげましょう。

こく ご
国 語

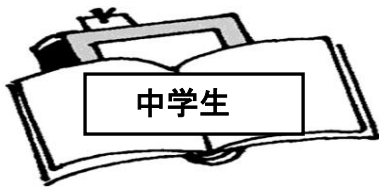
- 語句や漢字の意味は辞書やドリルを使って確認しましょう。
- 教科書の文章量が多くなるので、音読や黙読であらすじをしっかりとつかみましょう。
- 説明文、物語、詩、エッセー、古典など多くの作品に親しみましょう。

さん すう
算 数

- よく間違える計算は、手順や仕組みを確かめながら練習しましょう。また、間違えた原因を早めに確認する習慣をつけましょう。
- 数、式、図、表などを用いて考えたり、説明したりする学習を心がけましょう。

そのほか

- 習った曲をリコーダーで練習しましょう。
- 鉄棒やなわとび、ランニングなどで体力づくりをしましょう。
- 地図帳、白地図で国土を確認しながら産業の様子を学習しましょう。
- グラフ、表などを日頃から見慣れるようにしましょう。
- 歴史上の人物や出来事にふれた本に親しみましょう。
- 自分の生活を振り返り文章表現を上達させるために、日記を書きましょう。
- 家族の一員としての役割を持ち、しっかり果たしましょう。
- 新聞記事や社会のニュースなどを話題にして、社会に目を向けるようにしましょう。
- 自動車の燃費など工業製品の性能や、家で食べている食料品の産地などを話題にしてみましょう。



自分に合った生活習慣と学習習慣を確立し、力を伸ばそう！



◆教科ごとに先生が変わります◆

国語、数学、社会、理科、英語、音楽、美術、技術・家庭、保健体育、…。中学校では、教科ごとに**先生が変わります**。小学校のように、担任の先生がほとんどの教科を担当するわけではありません。よって、板書の仕方、ノートのまとめ方、宿題の出し方や量などが、先生によって違ってきます。それぞれの先生の教え方にいかに早く慣れて対応していくかが大事になってきます。ノートをとる時は、黒板に書いてあることを写すだけでなく、先生が話す大事なポイントもメモしておくことが大切です。

◆テストのやり方が変わります◆

小学校では、各教科で単元の学習が終わるたびにテストがありますが、中学校では中間テストや期末テストといった**定期テスト**に変わります。自分の現時点での学力をはかる**実力テスト**もあります。テストの回数は減りますが、テストの範囲が広がるのです。そこで、復習を中心とした**テスト対策**が必要となってきます。テスト対策のためにも、授業でわからなかったところは先生や友だちに聞いて、その場で解決するように努めることも大切です。

◆生活のリズムが変わります◆

中学生になると授業だけでなく部活動も始まり、学校で過ごす時間が長くなります。その分、帰宅時間が遅くなりますので、家庭での時間が限られたものとなってきます。その中で、**家庭学習の時間を確保**していかなければなりません。

家庭学習のポイント

1 授業を充実させるために！

- ・予習、復習をしましょう。
- ・出された宿題や課題は最初に取り組み、**確実に提出**しましょう。

2 テスト対策を！

- ・わからなかったところは**何度も繰り返して**復習しましょう（次の日、3日後、1週間後、テスト前、など）。
- ・テストの前には**計画を立てて**学習に取り組みましょう。

3 学習時間の確保

- ・テレビやゲーム、パソコン、スマートフォン、携帯電話は家族で決めた**約束を守って**利用しましょう。そして、時間を制限しましょう。
- ・どんな日でも毎日学習する**習慣**を身につけ、**継続**させましょう。
- ・中学校では、3年生の後半は**進路決定**に伴って、「家庭学習時間のめやす」（P2 参照）よりさらに多くの時間が必要となります。
- ・根気よく集中して取り組む時間と環境を整えましょう。



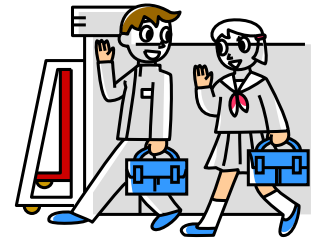
「早寝、早起き、朝ごはん」という言葉で表されるように、子どもたちが規則正しい生活習慣を身につけ、また宿題・予習・復習など時間を決めて勉強するなどの学習習慣を身につけることは、学力の向上を図る上で大切です。このことは毎年実施されている全国学力・学習状況調査の結果からも明らかになっています。

部活動や他の活動との両立をしっかりと図りながら生活習慣や学習習慣を確立させるべく、家庭での時間の過ごし方について、ぜひ各ご家庭で話し合ってくださいと思います。



生活習慣の確立のために

- 決まった時刻に寝たり、起きたりしている。
- 睡眠時間は十分にとっている。
- 朝ごはんは、毎日食べている。
- 自分からすすんであいさつをしている。
- 翌日の準備を前日中に行い、忘れ物がないようにしている。
- 家庭学習をする時は、テレビを消している。
- テレビやゲーム、パソコン、携帯電話（スマートフォン）等の使用についてルールを決めている。
- 毎日、決まった時間、家庭学習をしている。
- 家庭で読書する習慣がある。



※お子さんの家庭での様子を、一緒に振り返ってください。

学習習慣の確立のために

○リズムに合わせて

学校から帰ってすぐに家庭学習に取りかかるのか、それとも習い事等が終わってか取りかかるのか、お子さんのリズムに合わせて、お子さんと一緒に計画しましょう。

○限られた時間を上手に活用

学習時間を生活の中に位置づけ、テレビやゲーム、パソコン、携帯電話（スマートフォン）等の時間をコントロールしましょう。部活動との両立も大切です。

○がまんも大切

何かを始めるためには、何かを「がまんすること」も必要です。

※お子さんに合った学習計画を、お子さんと一緒に立ててみてください。

そして、できたことを認め、笑顔でほめましょう。

自主学習の参考例

国語

- ・漢字練習（ドリル・テスト練習等）
- ・意味調べ ・新聞記事を読む
- ・読書 ・新聞記事を写す
- ・日記 ・視写（教科書を写す等）
- ・音読 ・新聞の4コマ漫画の要約
- ・詩歌や百人一首の暗唱
- ・テストのやり直し
- ・四字熟語やことわざ、故事成語の意味調べ

算数・数学

- ・反復練習（足し算・引き算・九九カード、ドリル等）
- ・教科書の問題
- ・テストのやり直し
- ・授業の予習、復習
- ・ワークの活用

社会・理科・総合

- ・地図帳や資料集を身近に置いて、授業と関連していることを調べる。
- ・ニュース番組を親子で見、社会の出来事についての話をする。
- ・自然や生き物とふれあい、観察する。
- ・星座や月などを観察する。
- ・地図帳を使って、世界の国や都道府県の名前や場所を知っておく。

その他

- ・授業で学習したことをノートにまとめ
- ・学習した内容や、興味のある関連したことから、本やホームページ等で調べ。
- ・国語辞典や漢字辞典、図鑑等を身近に置いて、興味・関心があることを調べる。
- ・市販のドリルや問題集に取り組む。

※「家の仕事」に取り組ませることも、家族の一員としての自覚を持たせたり、親子のコミュニケーションを深めたり、「段取り力」を身に付けたりすることにつながります。「段取り力」は、学習を進めていく上でも大事な力となります。

英語（中学校：家庭学習での積み重ねが大切です！）

- ・新しく学習した英単語を繰り返し練習しよう。
 - ・学校で学習した教科書の英文をスラスラ読むことができるように繰り返し音読練習しよう。
- 教科書の例文

Hello, everyone.

I'm Margaret Brown.

Call me Meg.

I'm from Australia.